外科学会、あなたにとってどんな場所ですか？
― 会員意識アンケート2025 ―
結果報告

2026年4月

一般社団法人日本外科学会ブランディング委員会

アンケートの実施概要

調査期間：2025年10月17日　～　11月4日（19日間）

調査方法：JSSホームページを介したウェブアンケート

調査対象人数：40,766名

アンケートの広報方法：JSSホームページ、JSSメールマガジン、JSS代議員メールマガジン、サブスペシャルティ学会（日本消化器外科学会、日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会等）のメールマガジン・HPお知らせ掲載等、ブランディング委員会委員の所属施設を介した個別広報

アンケートのリマインド回数：未回答者に対し2回実施

会員意識アンケート2025

Last Update：2025年11月5日 New

アンケートは終了しました。
ご協力ありがとうございました。

ともに歩み、ともに切り拓く
日本外科学会
JAPAN SURGICAL SOCIETY

外科学会、あなたにとってどんな場所ですか？
― 会員意識アンケート2025 ―

このたび日本外科学会では、「外科学会に所属していてよかった」と会員の皆様に実感していただけるような、学会の価値や魅力を高める活動（＝ブランディング）の強化に取り組んでおります。
その第一歩として、現在の会員の皆様のご状況、ご意見、ご期待を丁寧にお伺いし、「ブランド向上」につなげるための道しるべを見つけるべくアンケートを企画しました。

アンケートはこちら　https://www.jssoc.or.jp/pubapp/member/enquete/ans/56AD400C739560799A92

※所要時間は約4～5分です。会員ログインが必要です。
最初の設問では、日本外科学会の文字ロゴの投票を受け付けております！（文字ロゴ案はこちら）

今回のアンケートでは、

- 外科学会の活動をどの程度ご存じか
- ご自身の勤務や生活の状況
- 学会にどのような取り組みを期待するか

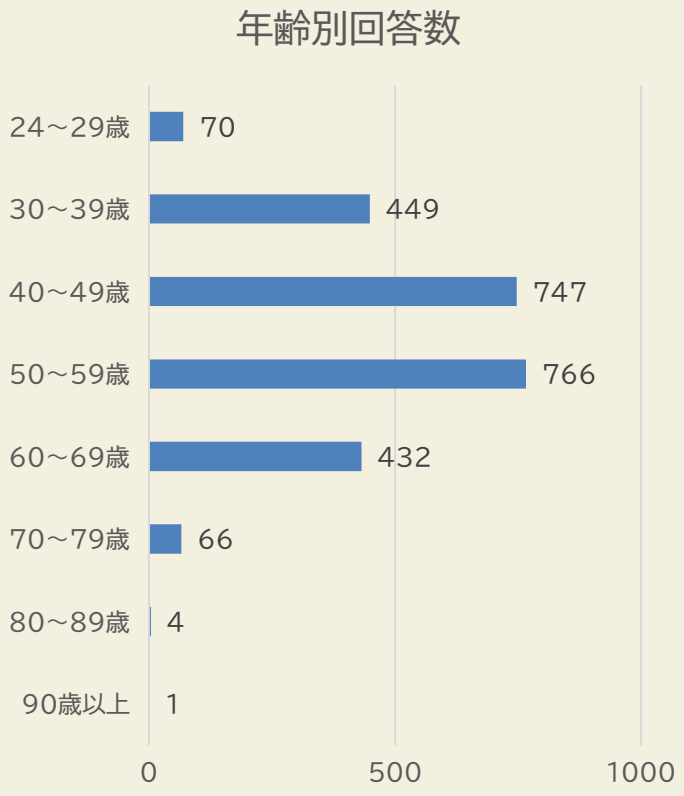
などをお伺いします。
今回のアンケートでは、すべての会員の声を学会の未来に生かすという強い想いのもと、回答率100%に限りなく近づけることを本気で目指しています。
外科医としての立場やライフステージは多様であるからこそ、皆様一人ひとりの声が不可欠です。 お忙しい中恐縮ですが、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。
締切は~~10月31日（金）~~です。**11月4日（火）まで延長しました！**
いただいたお声は、今後の企画や提言に反映し、学会をより力強く、より身近な存在へと育ててまいります。

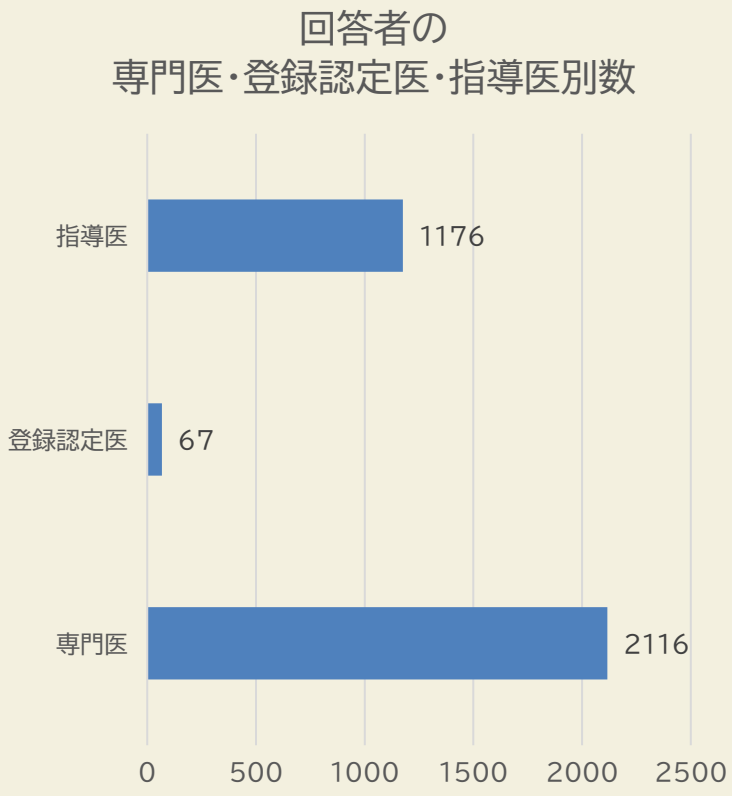
2025年9月30日　日本外科学会 ブランディング委員会

年齢別、専門医・認定医別、職位別回答数

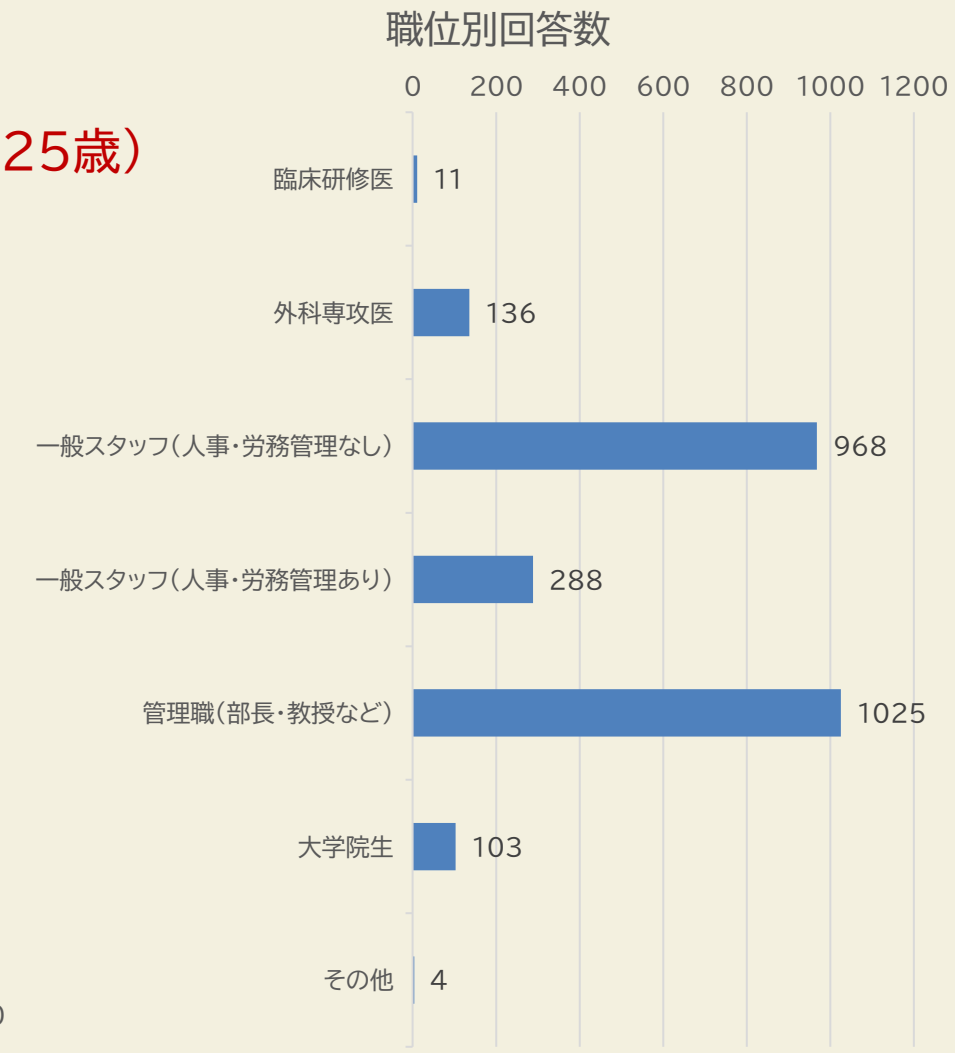
有効回答数は2,535名（回答率6.2%）

回答者の平均年齢は49.3歳、年齢中央値は50歳（最高94歳、最低25歳）



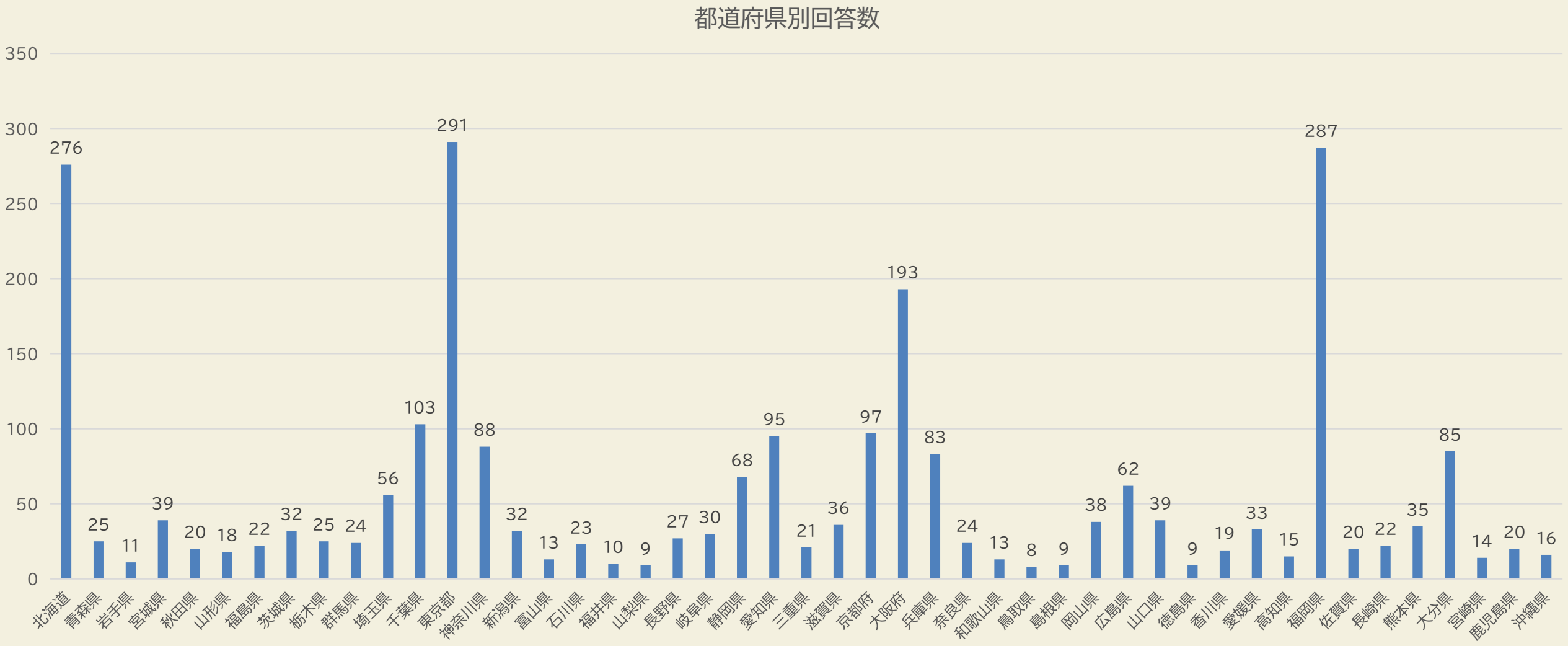


回答者の83.5%は外科専門医を有していた。



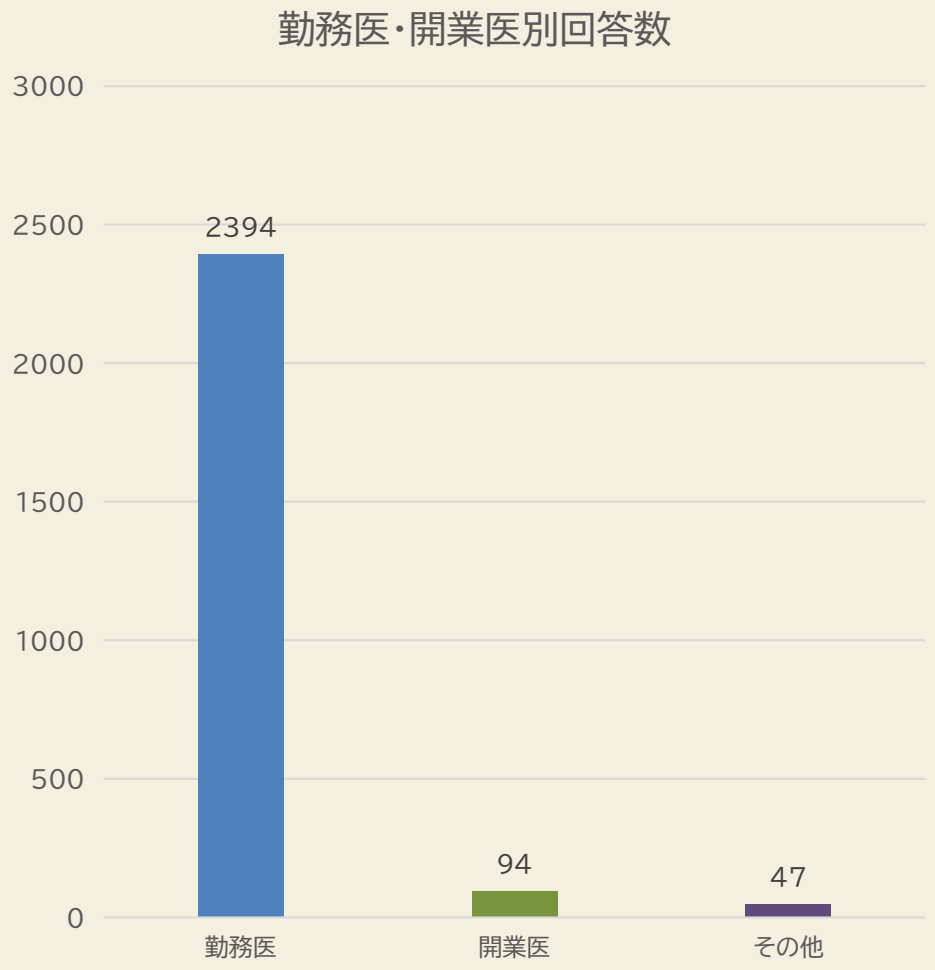
回答者の40.4%が管理職であった。

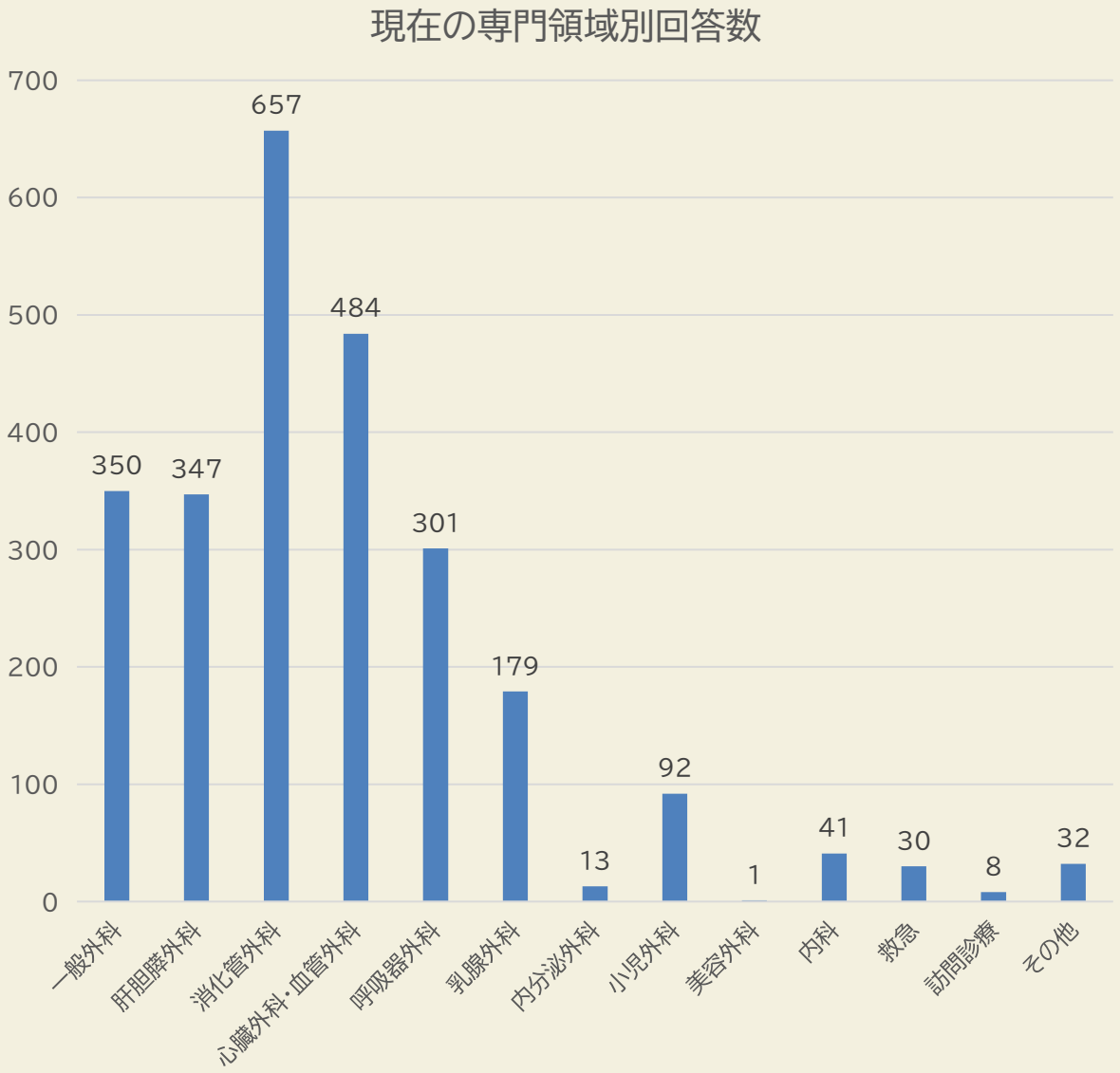
都道府県別回答数



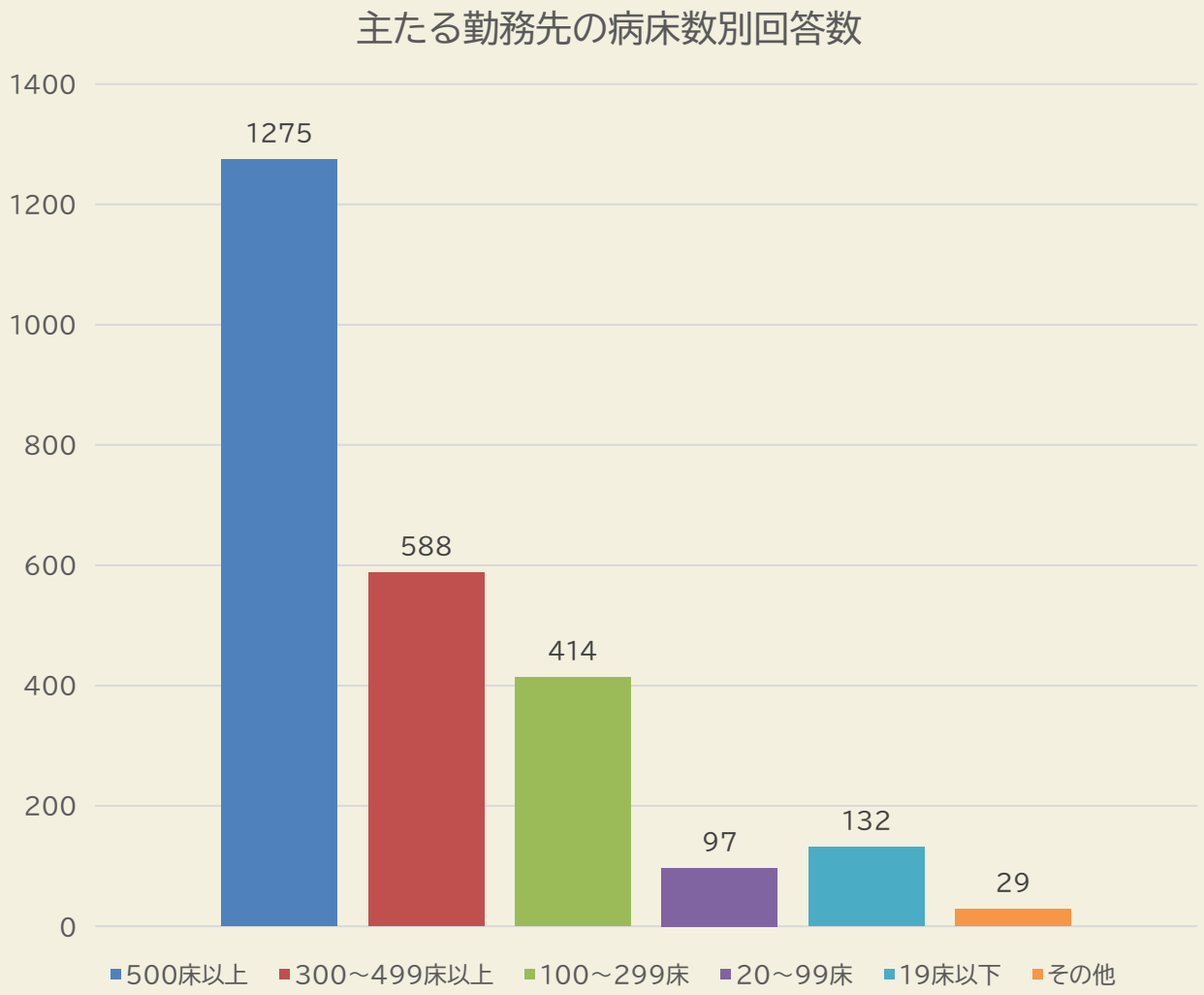
東京、福岡、北海道の順に回答数が多かった

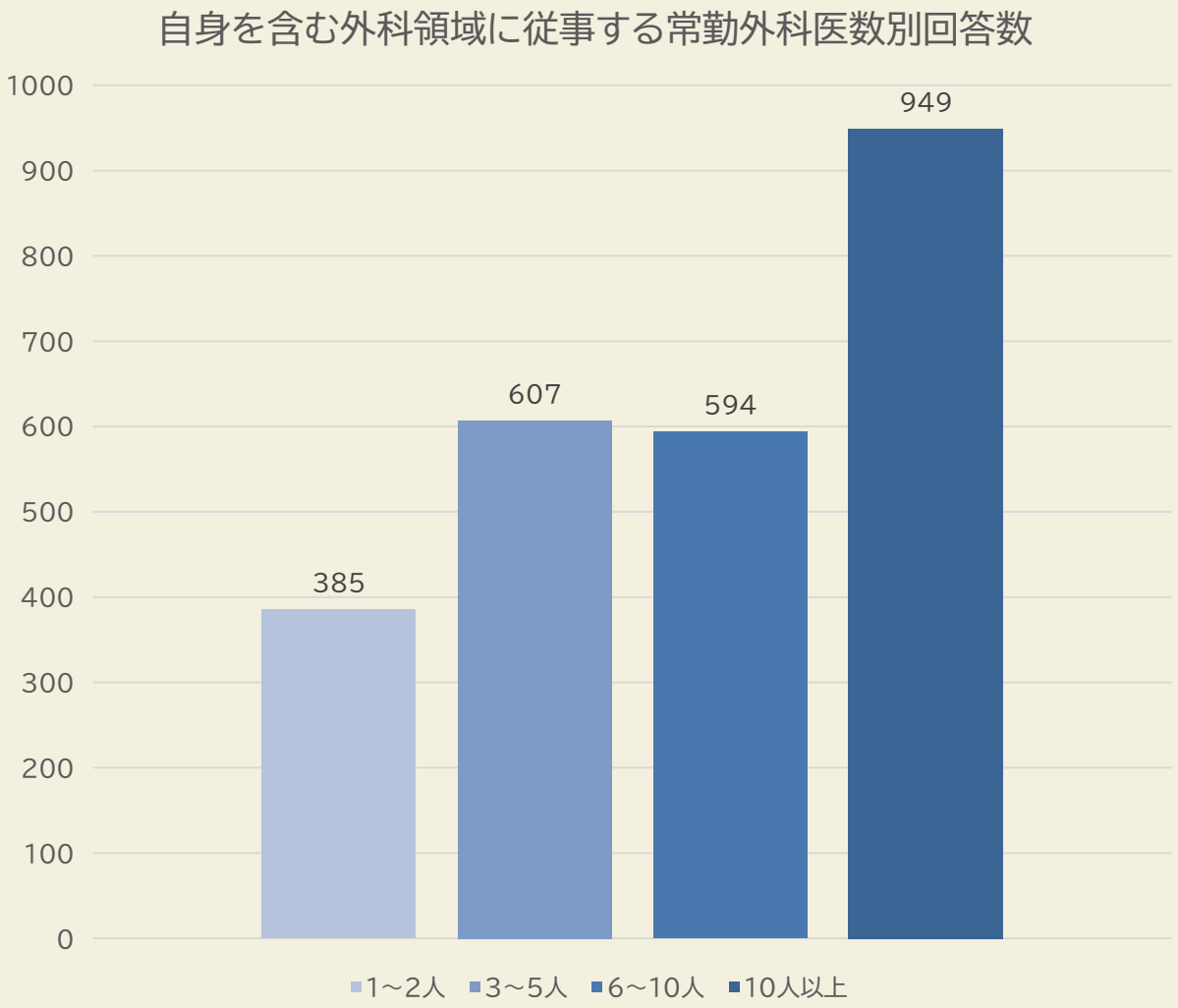
勤務医・開業医、専門領域別回答数



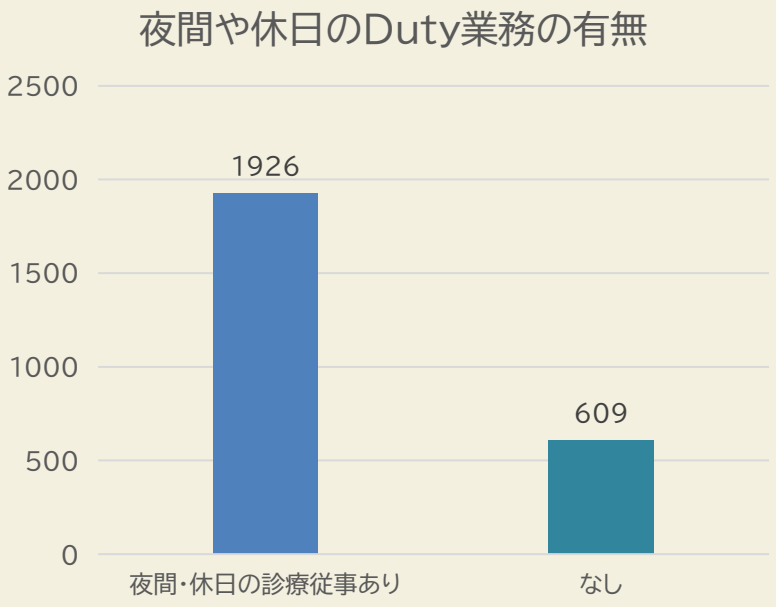


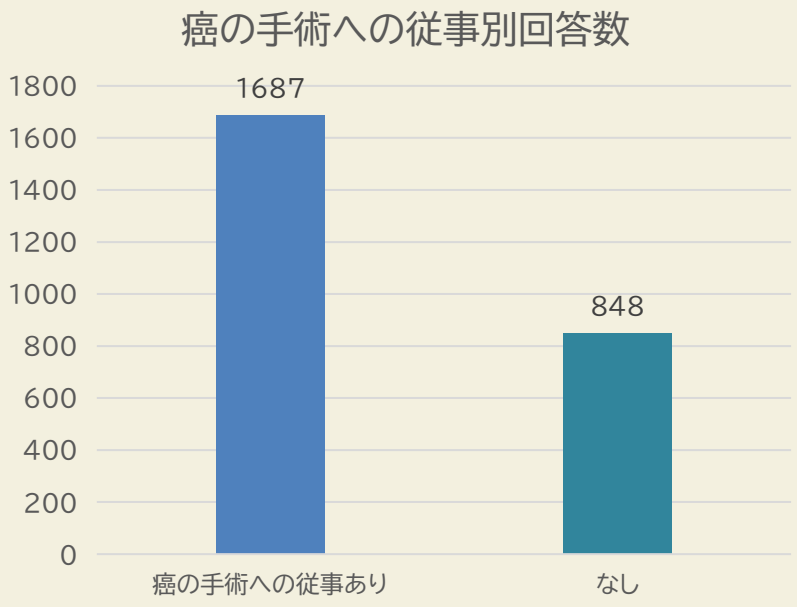
主たる勤務先病床数、常勤外科医数別回答者数

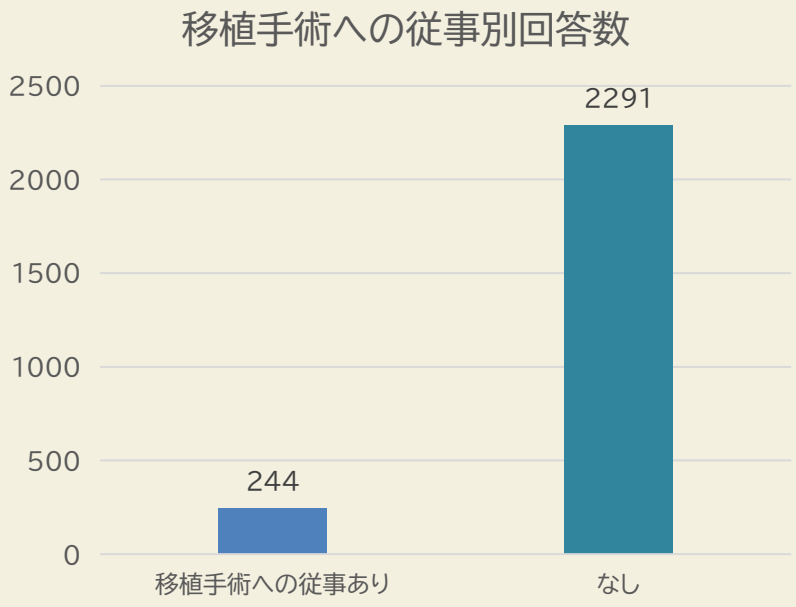




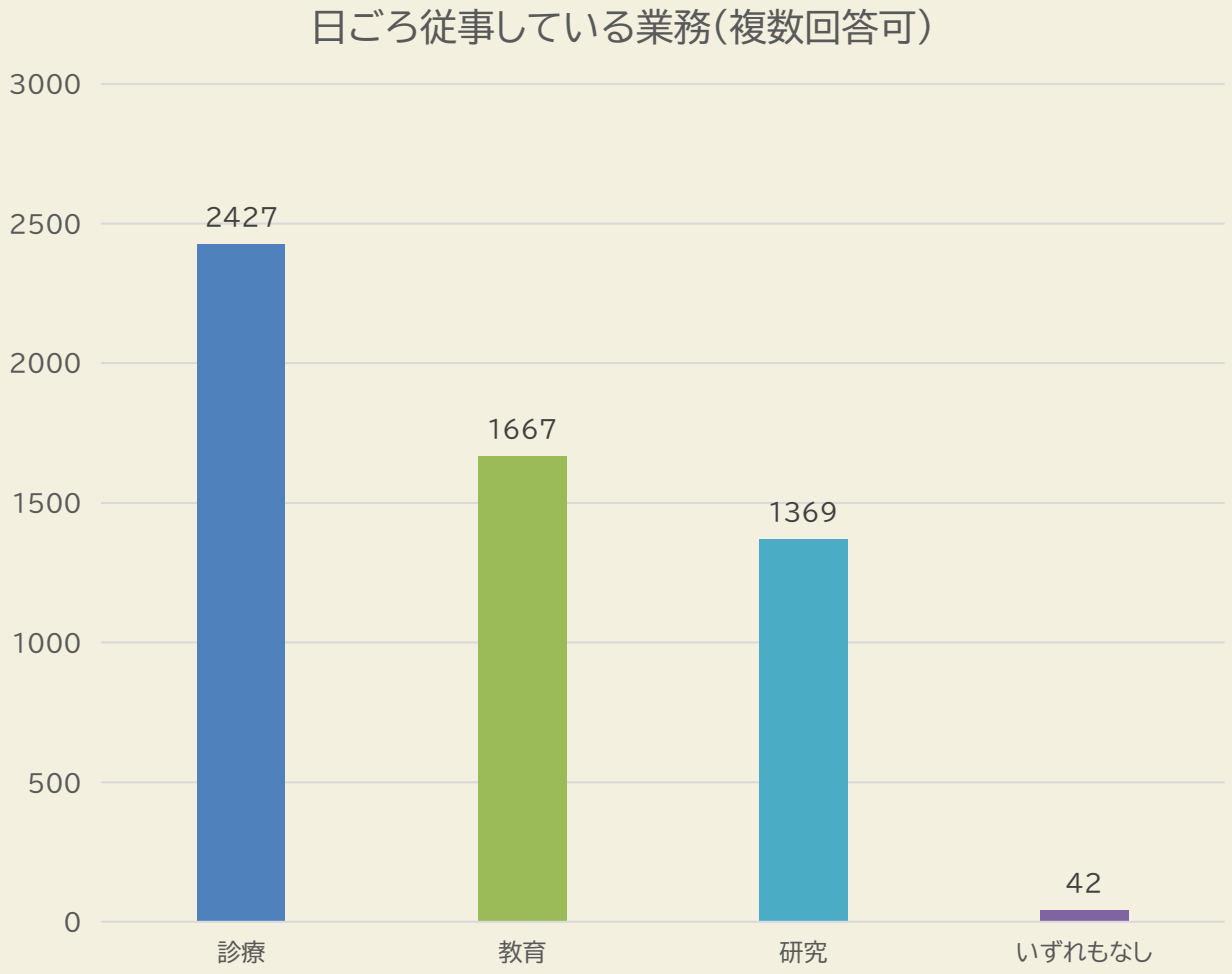
夜間休日業務、癌手術、臓器移植：各従事別回答数

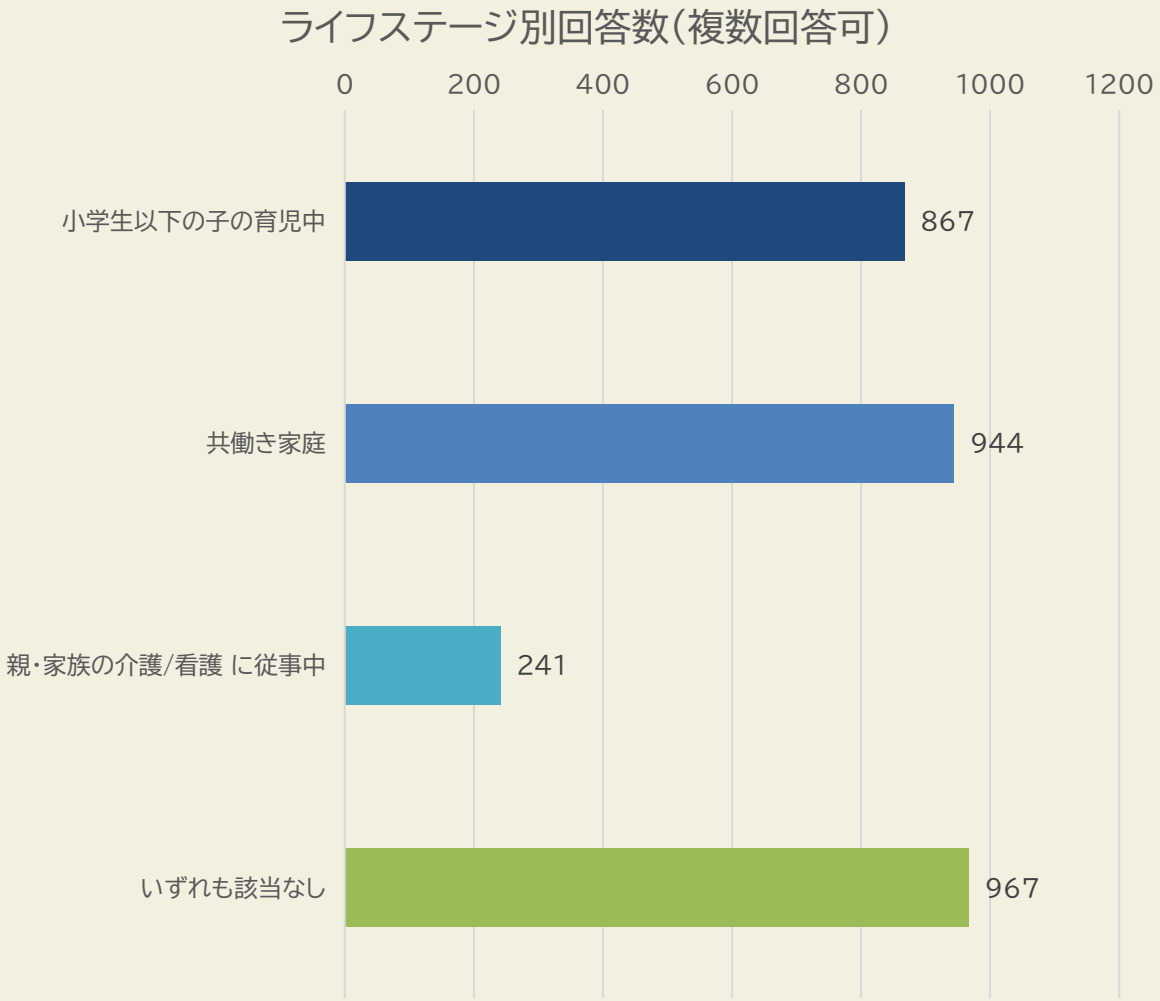




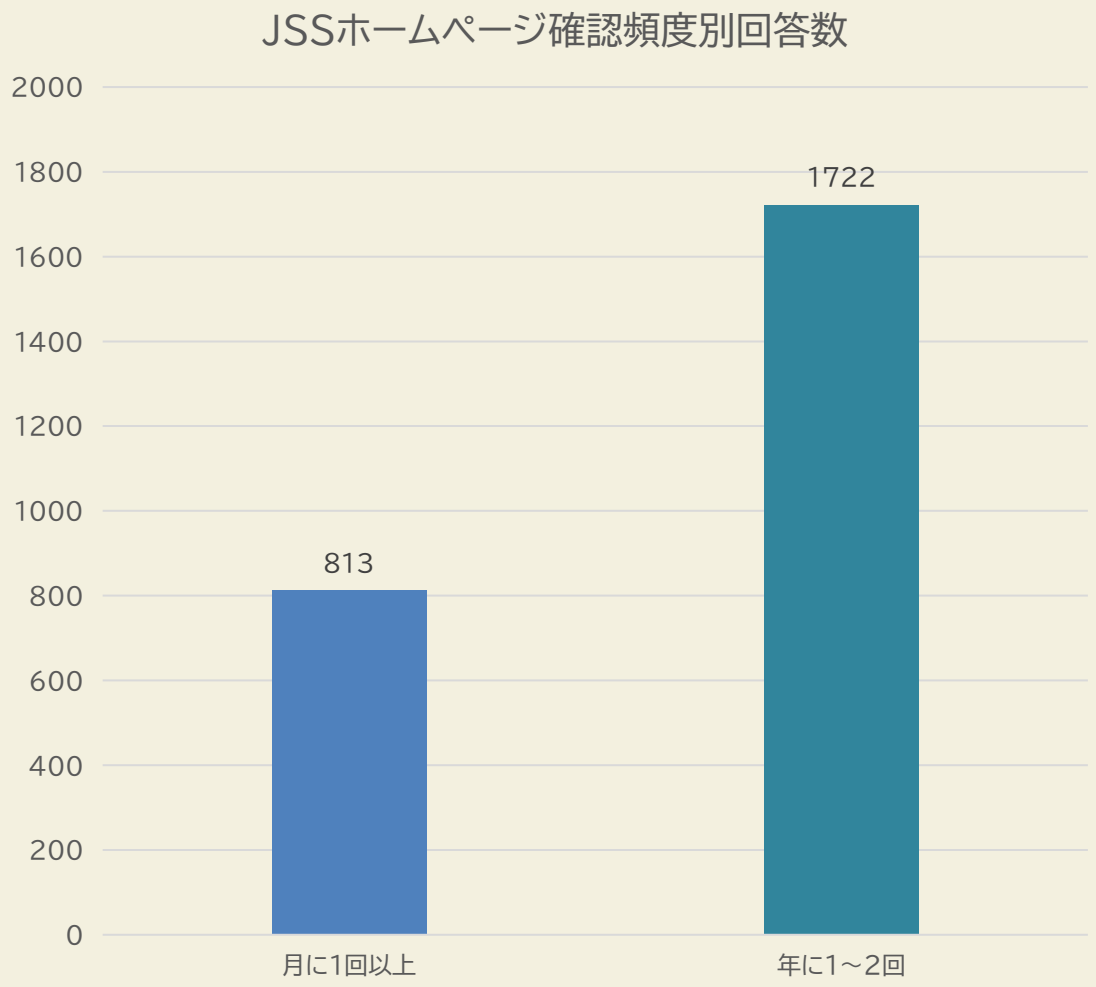


回答者の日常業務別、ライフステージ別回答数





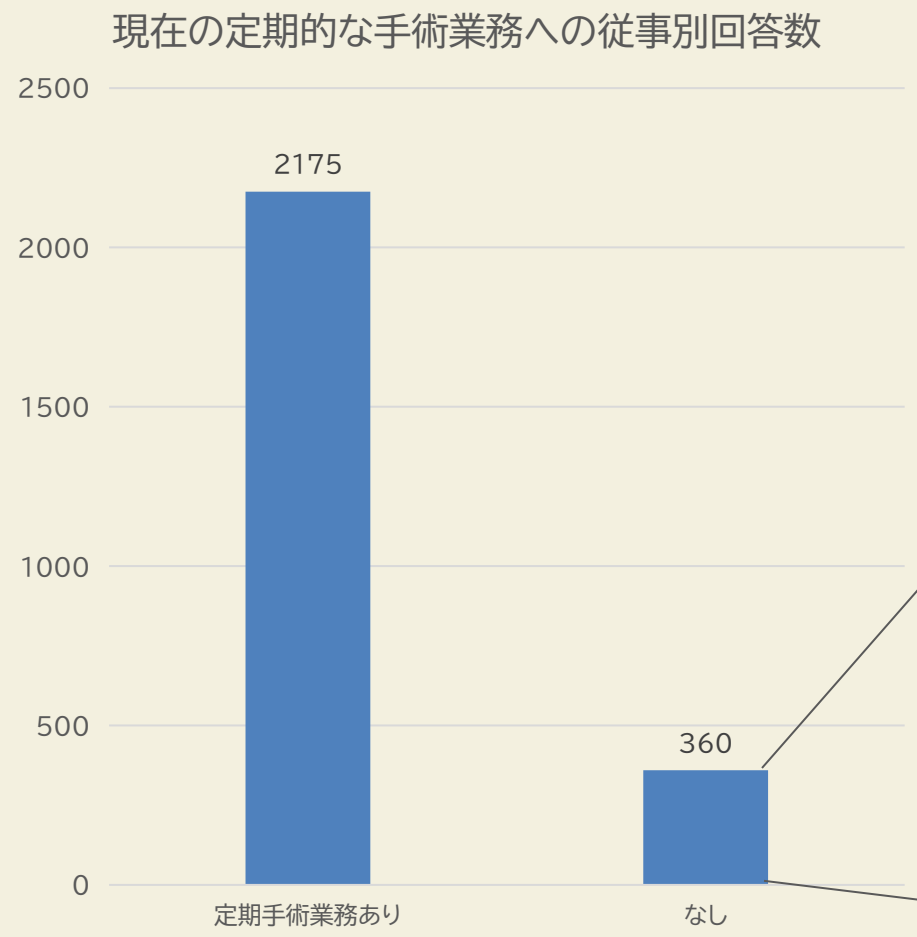
日本外科学会ホームページ確認頻度別回答数

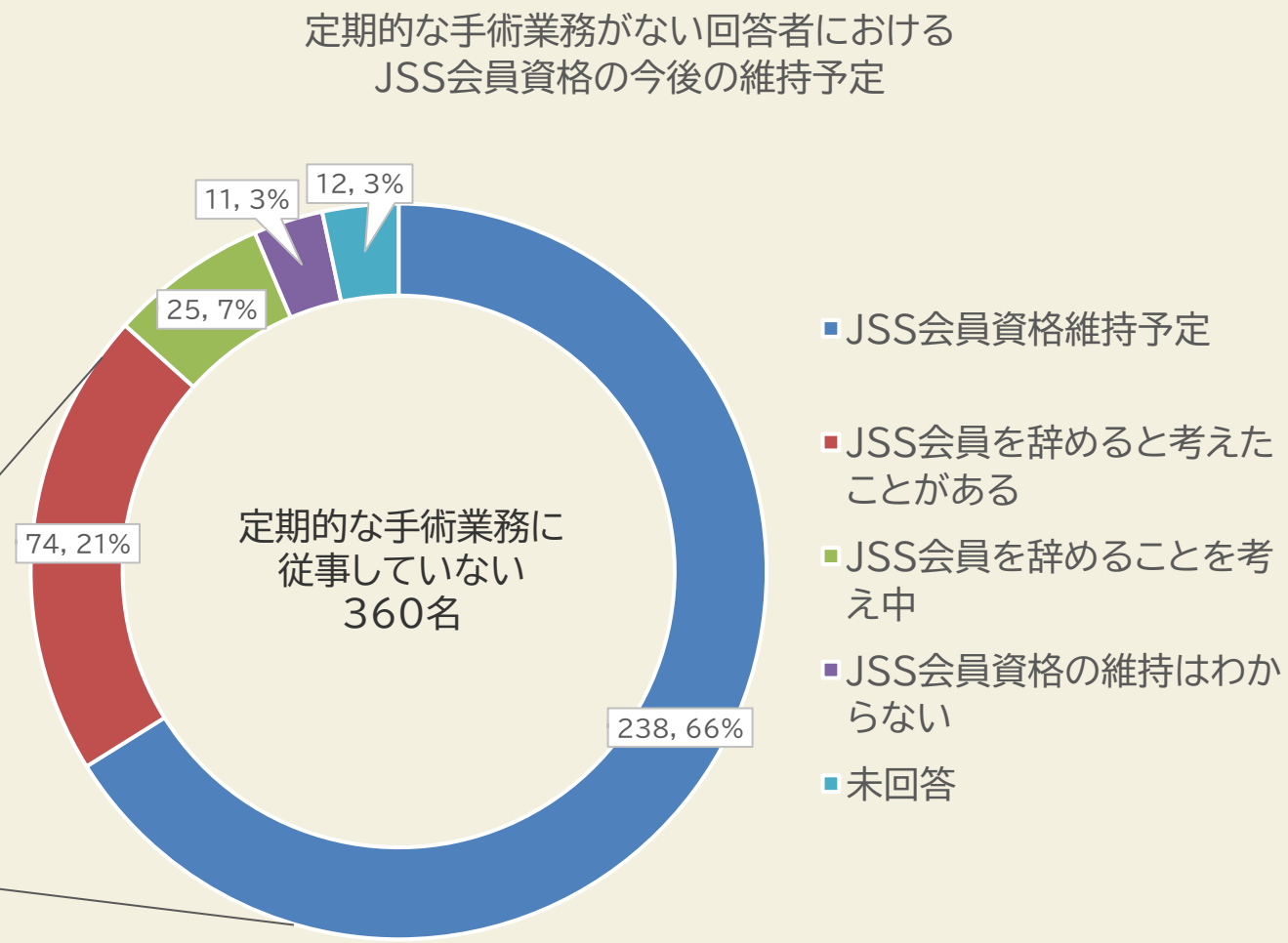


日本外科学会会員継続の理由

～定期的な手術業務に従事していない会員360名の自由回答の分析～

定期的な手術業務への従事別回答数





理由1：知識・情報収集と自己研鑽

手術業務から離れても、最新の知見をアップデートし日々の診療に役立てる必要性。

外来診療で必要:

手術適応の判断、術前評価、術後フォロー、内科的管理など、手術以外の場面でも外科の知識が求められる。

周術期管理・薬物治療の進歩に対応:

周術期管理や抗がん薬治療などは変化が速く、最新の知見を継続的に学ぶ必要がある。

適切な紹介・連携に必要:

学術集会や文献を通じて標準治療や最新知見を把握し、手術可能施設への適切な紹介や治療方針の判断につなげる。

理由2：資格・身分の維持と職務上の必要性

JSSは基本領域学会。会員資格（専門医または認定登録医）が他資格の維持や業務遂行に不可欠。

他学会専門医の維持:

サブスペシャリティ専門医（循環器、消化器内視鏡、消化器病等）の資格更新要件として、JSS専門医または認定登録医の資格が必要。

施設・指導体制の維持:

地域基幹施設、指定修練施設の認定のため。指導医資格の保持が施設運営・教育に関わる。

職務・実務上の必要性:

病院管理職・所属長の業務、医師賠償責任保険（団体加入）、身障意見書等の書類作成。

将来への備え:

手術業務への復帰可能性（一時休止、研究・留学からの帰任）を見据えた資格保持。

理由3：医師としてのアイデンティティと責務

外科医としての誇りを生涯持ち続け、後進の教育や地域医療に貢献する責務。

外科医としてのアイデンティティ:

「生涯一外科医」という誇り。キャリアの基礎であり、専門性の証明。苦労して取得した資格が心の拠り所。

教育・後進指導:

若手の手術指導、症例検討カンファレンスへの参加、非定期的な手術支援を通じた教育的役割。

地域への貢献:

地域の外科医療（検査・処置・小手術）を外来などで数多く担っている。

医局・学会との関係:

出身医局との関係維持（選挙、連絡）、学会運営への参画。

その他の理由 と まとめ

その他の理由

移行期間:
現在大学院生や留学中、退職直後であるなど、定期的な手術業務から離れたばかりである。

従来からの関わりに基づく継続:
長年所属しており、退会する明確な理由がないまま継続。

福利厚生目的:
医師賠償責任保険の団体割引のため。

まとめ

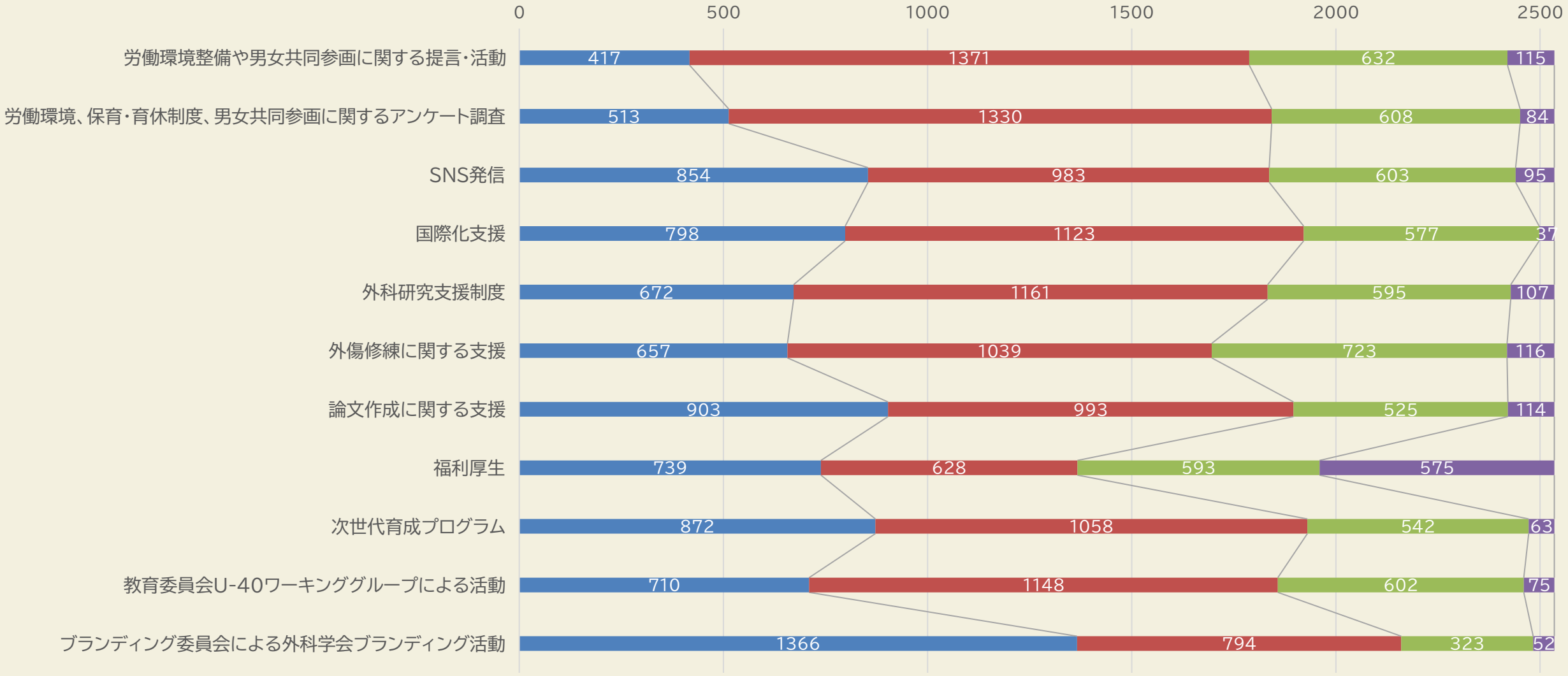
手術業務の有無に関わらず、
日本外科学会の会員資格は、

- **「最新知識」**(日々の診療・判断のため)
- **「資格維持」**(他専門医・施設基準のため)
- **「医師としての誇り」**(アイデンティティ・責務のため)

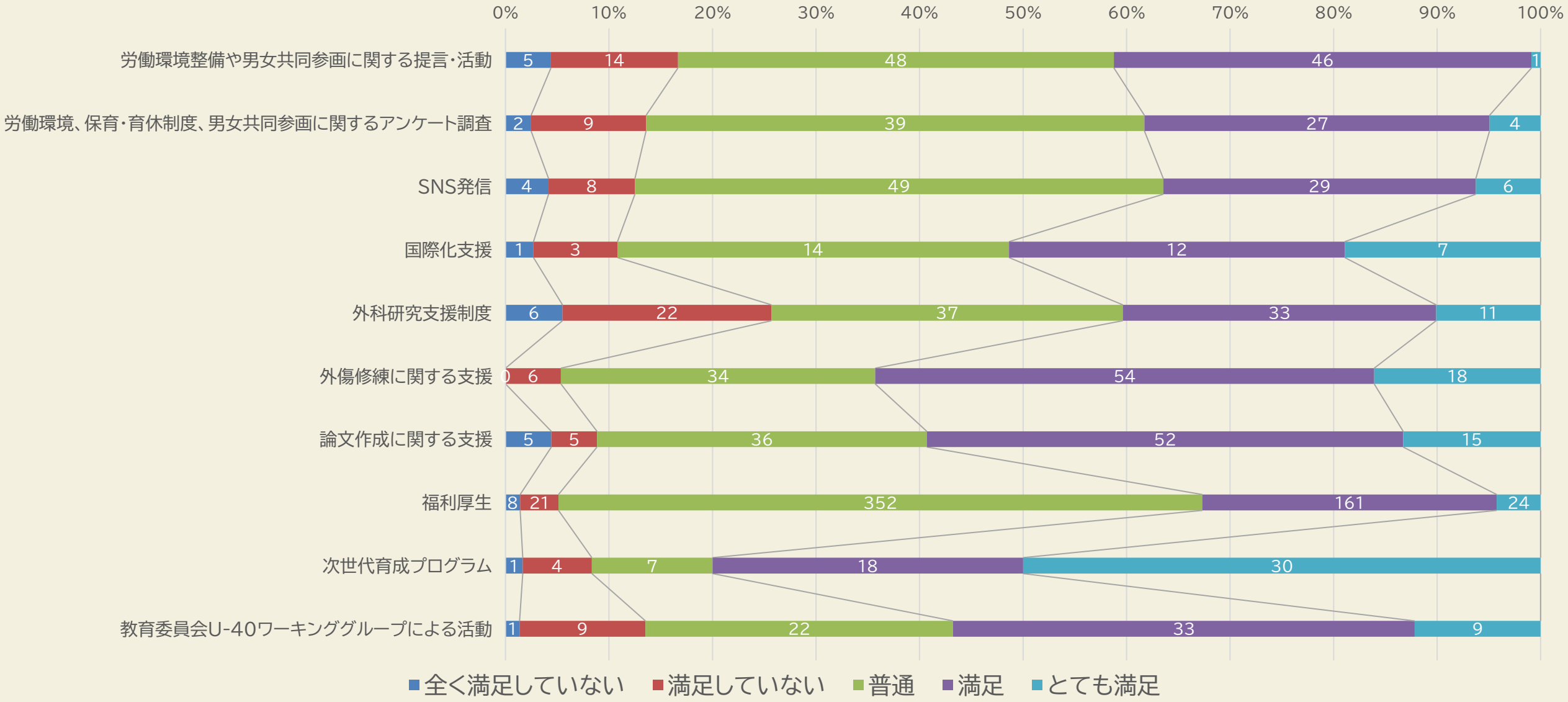
という多面的な価値を提供し、医師としてのキャリア全体を支える基盤となっていると推察される。

日本外科学会の活動に対する
認知度・活用度

日本外科学会の活動に対する認知度・活用度



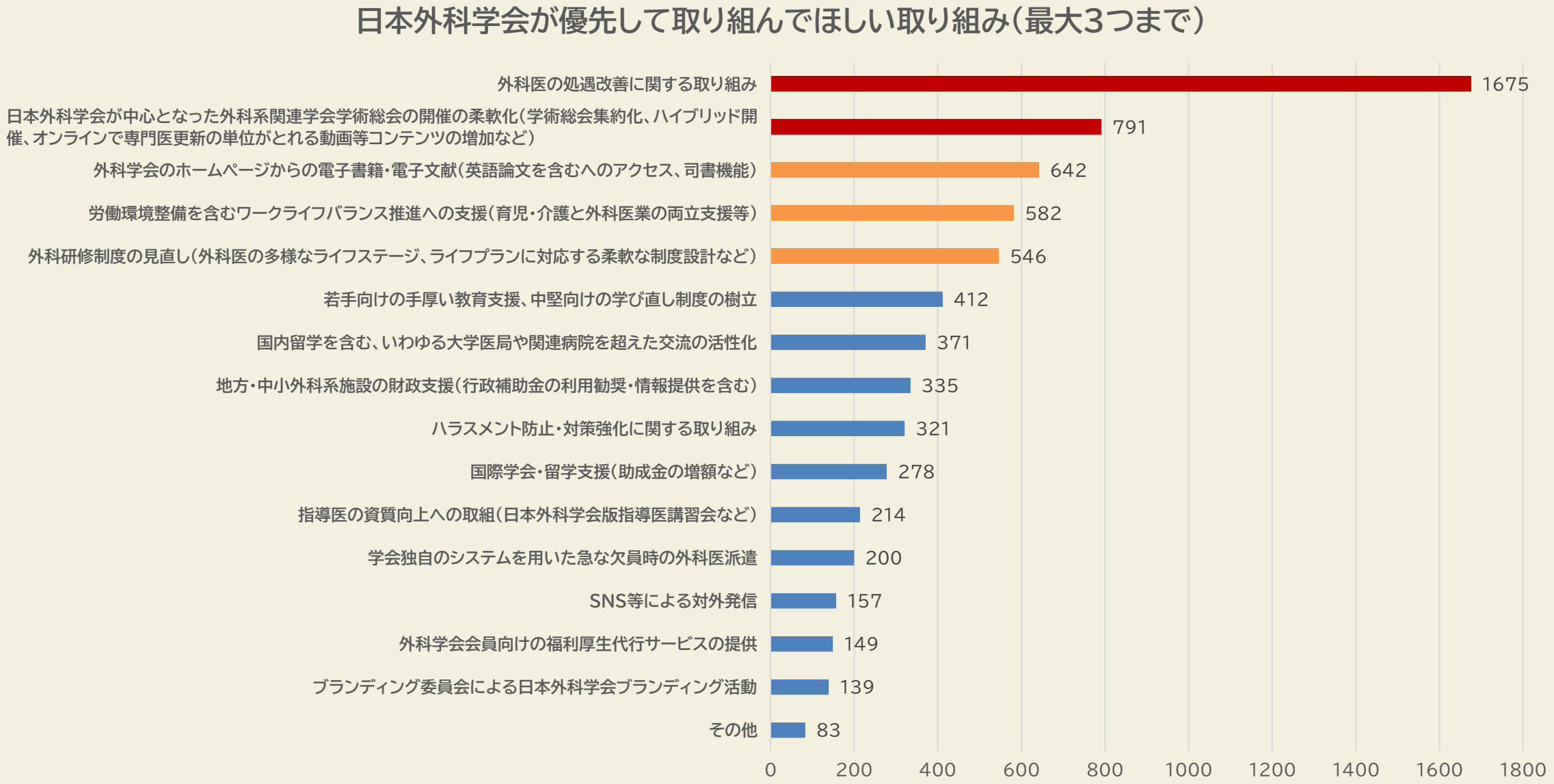
各活動成果を利活用した・しようとした回答者の満足度



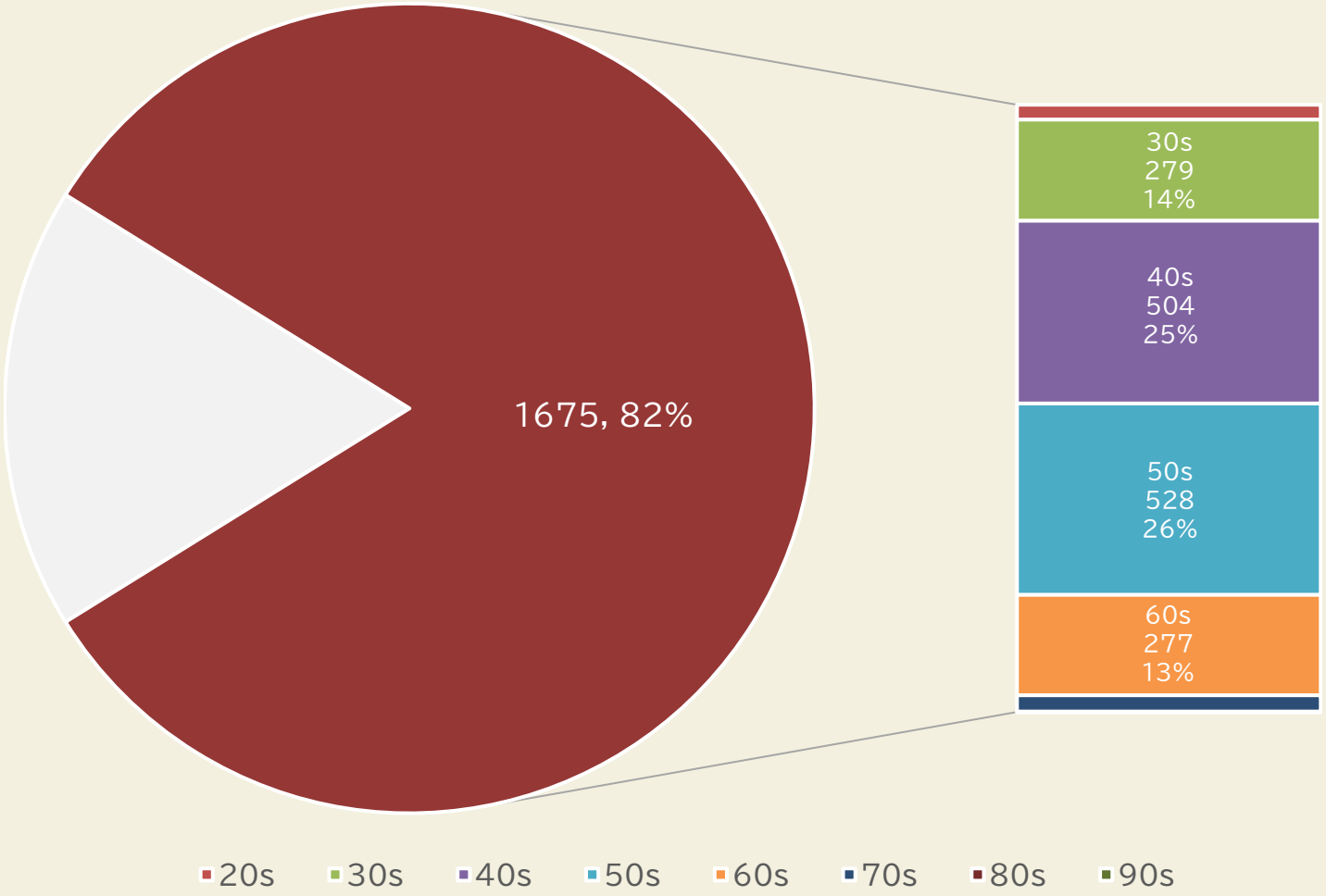
日本外科学会や
ブランディング委員会への要望

～自由回答の分析も含めて～

日本外科学会が優先して取り組んでほしい取り組み



外科医の処遇改善を選択した回答者の年代別割合



日本外科学会が優先して取り組んでほしい取り組みとして「**外科医の処遇改善に関する取り組み**」を選択した回答者は、全回答者の**82%**であった。

うち、**半数以上が40代・50代**の回答者であった。

自由回答の全体傾向と喫緊の主要課題（3点）

総括：日本外科学会やブランディング委員会への要望（自由記載）には、278名（11.0%）の有効回答が得られた。回答からは、外科医の処遇・労働環境に対する構造的な不満が強く示され、現状のままでは外科医療の持続可能性が脅かされるという切実な危機感が読み取れた。

1. 経済的・社会的処遇の是正
2. 学会組織と活動の効率化
3. 外科医の育成とキャリア環境

最優先課題 1-1：経済的処遇の是正

外科医の労働に見合う対価の実現が、最も強く要望されている。

基本給の大幅な是正:

海外の事例を引き合いに、**基本給の大幅な引き上げ**を求める声が多数を占めた。これは、コロナ禍以降の**物価上昇**や、多忙な外科医はアルバイトで収入を補填できない現状に対する不満に基づいている、とする意見が見られた。

中堅医師の流出要因:

若手・中堅医師が**美容外科や訪問診療など**に流出している最大の原因は、給与面の不均衡にある、と分析している意見が散見された。

医療制度の根本的見直し要求:

高度医療を支える病院や診療科に十分な資金が集まるような診療報酬を含む**医療制度の在り方**を、国や厚生労働省に働きかける必要性が強調された。

最優先課題 1-2：社会的地位の向上と保護

医療の高度化と高齢化がもたらす新たな負担から、外科医自身を守る環境整備が急務。

社会的保護の必要性:

超高齢化社会における**周術期管理の負担増大**に対し、外科医の労働が過小評価されている現状があるとする意見が見られた。訴訟リスクなどから外科医を守るための**啓発活動**も必要であるという意見もみられた。

当番制についての社会的認知促進:

患者さんやご家族に、**厳格な担当医制（主治医制）ではなく、当番制（シフト制・チーム制）を受容していただく**ため、社会的認知を促す活動を求める意見が見られた。

課題2：学会組織と活動の効率化

多すぎる活動の統廃合と、予算の使途の重点化を求める声。

学術集会・学会の統合化:

学会、研究会が多すぎるため**集約化（統廃合）が急務**である、との意見が多く見られた。演題応募数が満たずに締め切りが延長される学術集会の存在や、**論文化されていない発表数**を把握し、統廃合の判断基準とすべき、との具体的な提案があった。外科学会が**専門学会と同じテーマで重複**していると感じる若手医師もおり、**専門分野の学会との効率的な連携**が求められる、とする意見も見られた。

活動の重点化:

学会が予算を割くべき活動は、**勤務医の労働環境と処遇改善（対厚生労働省）、国際交流、国内交流**であって、教育活動、ハラスメント対策、福利厚生は地域性もあるので**より狭い管轄（地域別）**で効果的な活動を行うべき、との意見があった。学術集会は、**参加費の値下げ**や**著名人招聘などの催しの削減**によるスリム化を求める意見も見られた。

SNS活動への懸念:

過度なSNS活動は逆効果になるリスクや、**中途半端な発信は不要**との見解、またSNSの重要性は低いと判断する意見も一部で示された。

課題3-1：外科医の育成とキャリア環境の改善

働きやすさの向上と多様性の担保が、次世代外科医の確保に直結。

中堅医師の流出防止:

新たな研修医を増やすことよりも働き盛りの世代の減少を抑える取り組みの重要性を強調する意見が散見された。また、若手時代に過重労働を強いられた世代（40～50歳）が、**働き方改革のしわ寄せ**を受けている現状への指摘も見られた。

多様性の担保・両立支援:

外科に関する業務についても、また家庭に関する業務についても、負担の偏りを生まないよう、**男女問わず子育てと両立できる制度**（院内夜間保育、病児保育、家事代行サービスなど）を積極的に導入して、真の多様性が担保できるような仕組みを外科学会が醸成していくべき、という意見が見られた。

課題3-2：外科医の育成とキャリア環境の改善

働きやすさの向上と多様性の担保が、次世代外科医の確保に直結。

ハラスメント対策:

パワハラが原因で外科医を辞める事例が身の回りでも発生している、とした回答者からは、上司に対する匿名での360度評価など具体的な施策の提案も見られた。また、ハラスメントの防止策を効果的に講じるためにも、日本外科学会の代議員や委員会構成に**若手や女性の意見をより反映**させるべき、との意見も見られた。

専門医制度への要望:

キャリアの多様性を認め、手術実績の代わりにオンラインシステム上でのテストなどの代替手段を導入し、**外科専門医の更新要件を緩和**すべき、との要望があった。さらには、海外での臨床経験症例を専門医維持の経験症例としてカウントするよう求める意見も見られた。

その他の自由回答

広報・ブランディング:

「外科医が夢のある仕事」であることを小中高生などの若い年齢層へ向けてもっと発信すべき、との提案が多くみられた。

また、日本の外科診療が世界に比較し優れている点を一般の方へもっとアピールすべきである、とする意見もみられた。

一方、メールニュースやホームページが**会員にとってのベネフィットを十分に伝えられていない**、との指摘もあった。

また、**外科医の処遇改善こそブランディング**である、とする意見も見られた。

今後の見通し

現在これらの結果に基づき**具体的な取り組み**を検討中です。

第126回日本外科学会定期学術集会(札幌)の情報広報委員会・ブランディング委員会企画のセッションにて本アンケート調査結果に関する詳細な報告を予定しております。お時間のある先生は、ぜひご参加ください。

情報広報委員会・ブランディング委員会企画

2026年4月25日(土) 13:50～14:50

第3会場 (京王プラザホテル札幌 2階 ローズルーム)